

## 1. 評価結果概要表

作成日 2007年9月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0871800199
法人名	有限会社 サンミルクサービス
事業所名	グループホーム バンヤンツリー
所在地 (電話番号)	茨城県坂東市岩井5200-29 (電話) 0297-34-3738

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年8月29日	評価確定日	平成20年1月21日

## 【情報提供票より】(19年8月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15人	常勤 9 人, 非常勤 6 人	常勤換算 14 人

## (2)建物概要

建物形態	併設/ <del>単独</del>	<del>新築</del> /改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( ) 円		○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有 120,000 円	有りの場合 償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

## (4)利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.3 歳	最低	65 歳	最高	95 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 江東会 存身堂病院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは、職員の工夫と努力によりアットホームな環境を作り出している。利用者1人ひとりの生活習慣を職員全体で把握しようと、若い職員が日々努力している様子が窺えるようであった。また、外部の環境も緑豊かな環境であるが、ホーム全体の作りも小鳥の声が聞こえるような中庭が配置され利用者の安らぎの空間が確保されていた。更に地域との交流を試みるべく「小学校」「中学校」その他地域との交流を意欲的に試みる工夫がされており、日頃の努力がうかがえるようなホームであった。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価に向け運営者と共に自己評価を作成する、更にそれらを分析してみるなど改善に向け検証がされていた。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員が行っていた。自己評価を行う事により自分達の思いが各々違っていた事、「気づき」に少しずつずれが生じていた事等の気づきも得られたようであった。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の委員には市町村職員も加わって定期的に開催されているが、現在は現状報告などに留まっており今後に向け期待されている状況であった。今後は「苦情・ヒヤリハット・身体拘束に関わる事」などサービスの詳細に関する事項が検証され、サービスの向上に寄与できる事を期待する。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の不安・不満は家族訪問時等に徴収される仕組み。更に家族会が構成されその中からも家族の意見等が反映できる仕組みを構築されている。今後はこの仕組みを更に生かされる、無記名のアンケート調査をするなどより良いサービスに向けた取り組みを期待する。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りに参加する、小中学校に訪問を依頼するなど取り組みを行っている。地域の環境上買い物に歩いて行くなどは望めないが、日常的に「散歩」などは行われ地域の方からは、野菜などいただくなど連携が少しずつとれているようであった。今後は自治会とのかかわりなど地域に住まう「住民」としての取り組みを期待する。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前に作成された理念に加え、地域に密着できるような理念を構築されホールに掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、カンファレンスなどで話され共有されている。しかし、その理念を日々の生活に生かす取り組みが不十分であった。	○	施設長・管理者・パート職員を問わず共有の目的が持てるようなわかりやすい理念を、職員と共に作成するなど具体的方法が構築され、具体的な実践に繋がる事を期待する。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には入会していないが、地域の小学生・中学生などが気軽に立ち寄ってくれたり、実習にきて貰えるように学校長等に数回にわたり交渉するなど積極的に馴染もうとする姿勢が伺えた。また、地域の祭り・行事などにも積極的に参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で行い職員全員で検証されている。更にその中から問題点を具体的に抽出し検証されていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、市町村職員をはじめ専門職が参加し定期的に開催されている。しかし、現在は現状の報告等に留まっている。	○	現在行われている運営推進会議を生かし、利用者家族の意見をくみ取る方法・身体拘束等への取り組み・虐待の防止等更なるサービスの向上に向け取り組んでいただける事を期待する。

茨城県 グループホームバンヤンツリー

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への定期的参加は勿論の事、それ以外にも(解決困難な事例等)綿密な連携を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への報告は、面会時は勿論の事、毎月の行事を掲載した広報誌をホームで作成し担当の職員と管理者等が協働しご利用者の日常生活を定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が組織され行事等への支援がされている。また、日々訪問した家族に対しては、もてなしの心で対応し苦情が言い易い環境を構築している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は基本的に固定化され利用者が馴染みの関係が作れるような職員の体制が構築されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人の職員は、3ヶ月・1年の研修が実施されている。また日常生活の中でOJTも実施されている。また、外部研修にも随時参加している。	○	現在行われている研修を含め、法人として職員の資質を向上させることができる、更に組織的に実施できるような継続的・計画的な研修への取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	国・県のグループホーム協会にも加入している。職員と近隣のグループホームとの交流も実施されており、サービスの質の向上に取り組む姿勢がみられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	やむなく急遽利用される方も多いが、入居後家族の協力を仰ぎホームを頻回に訪問していただくなど利用者が馴染める環境を整える努力がされている。		入居の契約時等に自宅を訪問し契約を行うなどの工夫がされ、グループホームに入居される利用者の家庭での状況を知る事・馴染みの品の相談・ダメージを最小限にとどめることも可能であると思われ、今後法人としての方針を検証される事を期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の不安・苦しみなどの思いを受け止め共に暮らす関係を構築する努力がされている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ひとり1人の会話の中から利用者の思いを受け止める努力を行っている。また、意思疎通が図れない利用者に対しては家族から情報の提供をお願いしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の訪問時等折に触れ関わり合いをもち希望・意見を聞けるような体制をとっている。また、利用者の思いは日常生活の中からもみ取るよう職員全体で話し合っ計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に作成され、職員会議で検証され更新した介護計画が作成されている。	○	ケアプランを作成するにあたり、利用者・家族の意見・利用者の状況の変化に応じた介護計画を作成していただくのは勿論の事ですが、作成するにあたり更に法人で定められたアセスメント用紙・その他のアセスメントの書式を利用され裏づけが明確にされたケアプランの作成を希望する。

茨城県 グループホームバンヤンツリー

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営推進会議の中で地域のニーズを把握している。また、家族会を設置し地域・家族の要望に答えられる体制を整えられるよう検討されている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	その方が生活していた時のかかりつけ医を希望される利用者に対しては希望が叶うような方法を講じるようにしている。また、その他の利用者の受診の方法は利用者・家族の希望が叶う方法を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアに関するマニュアルも作成され地域の医療機関とも連携をとっている。また、利用者がかかっている医療機関とも綿密な連携をとっている。		今後は、法人としてターミナルケアに向けた方針を明確にされ職員教育・ターミナルに向けた方策を検証していただける事を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居されている方・家族からはプライバシーに関する同意をとり写真・掲示物などを公開している。		今後は、個人情報に関する同意に関しては文章で確認をとっていただき、法人に保管していただけるように期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が1人でも洗濯物が干せるような高さに物干し竿も設置され、また中庭を有効活用し、その方が望む暮らしができるような暮らし方を工夫されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理自体が委託業者が行っており、利用者が食事作成に関わる事はない。配膳の一部は利用者が配膳を行うなど行っている。しかし、おやつは利用者と共に作成する・野菜を利用者の見える所に植えて成長を楽しむなどその中で出来る工夫を行っている。	○	今後は、食事・生活・趣味・その他生活者としての利用者の力が発揮できる場所・環境の工夫をしていただき、利用者の日常生活の質が更に向上され、利用者のもてる力が発揮できる工夫を検証していただける事を期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者の希望を尊重しほぼ毎日実施されている。また、介護者も同性介護を実施し利用者が入浴を楽しめる工夫がされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活に必要な役割は、介護者がほぼ行っており個人・個人の役割・楽しみごとへの支援は、買い物などが行われているが、一部の利用者が中心に行っている。	○	今後は、更に利用者の多くの方の生活歴・行える事・持てる力を探し出し、各々の思いが叶い張り合いのある生活ができる支援を期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの傍に気楽に買い物にいける場所がないため、買い物は日常的に車で買い物に行く工夫をしている。また、学校の近くを散歩したり、戸外に出掛ける工夫がされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	通常の生活の中で鍵をかけない工夫は普通に行っている。外出したような利用者の様子は職員が日常生活の中で何気なく察知する工夫がされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に関する各種マニュアルが作成されている。また、消防署・警察とも連携をとり消火器の使い方などの訓練もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量・水分の量など細かくチェック表を作成し利用者の栄養バランス、個人個人の食習慣を把握する工夫がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光の調整も適度にされ、建物のつくりを生かし、中庭は緑豊かな環境が作られている。また、華美な装飾を施さず、自然と調和できる環境を作っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やテラスは豊かな採光の工夫と小鳥が鳴くような居心地の良い空間が作られていた。居室も家族と相談し住み易い空間を作る努力がされているが、なかなか家族の協力が得られないため同ような居室になってしまっている。	○	今後は、契約時自宅に出向いて契約を交わしながらご自宅の様子を見せていただき、利用者に馴染みに品物を相談するなどの工夫も講じていただき、利用者が生活し易い環境づくりを期待する。